令和４年度　りんでん幼稚園自己評価結果公表シート

１. 本園の教育目標

『仏教保育』

仏教保育を通して、報恩と感謝の心を育み、明るく素直で、人の話を集中して聞くことができる態度の育成に努めます。

本園では、めざす幼児像として次の項目をあげる

① ありがとう ごめんなさい が素直に言える子ども

② 友達とのつながりを理解し、思いやりのある子ども

③ ひとつのことを続けていくことで楽しみを見つけられる子ども

『心の教育』

「幼児期にしっかりと愛情こめて育てる事により小学校で根付き中学校で花が咲く」

いかに幼児期が大切であるか幼稚園生活を通して、ほとけ様の心【心の教育】を育んでいます。

①「すみません」という反省の心
②「はい」という素直な心
③「おかげさまで」という謙譲な心
④「私がします」という奉仕の心
⑤「ありがとう」という感謝の心

『音体教育（鼓笛を通して）』

鼓笛とは、音楽・体育をもとにし「生きる力」「リズム感」「感性」を培っていく教育です。

そのために本園では、鼓笛を通して、「美しい姿勢」・「挨拶」・「けじめのつけられる生活」（遊ぶ時は遊び、頑張る時は頑張る）が身につき、協調性、集中力、忍耐力を養い、日々の練習を積み重ねて、努力をし、最後まであきらめず自信をもち、子ども達が【自分で考えて行動できる】ように取り組んでいます。

鼓笛は一人ではなく、みんなで力を合わせないとできません。悔しい気持ち嬉しい気持ちがわかる子ども達だからこそ、お友達に思いやりをもって、力を合わせることの大切さを知ることができます。

ひとつのことを頑張るということは、この年齢ではとても大変なことです。「できない！」と悔しい気持ちになったり、また悲しい気持ちになったりする時もあります。

だからこそ、「できた！！」「やった！！」という喜びを大切にして、『できた！』喜びや達成感をお友達や職員と共に共感することで自信へとつながります。

最後までやりとげられる力を、鼓笛マーチングを通して体得することができ、この力は将来子ども達の【生きる力】となり、誇りをもって生きていく力になると確信しています。

２. 本年度の重点的な目標・計画

全職員が共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるように教育内容の改善に取り組んでいく。

３. 評価項目の達成及び取り組み状況

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の確認・見直し ①仏教の行事や週礼参拝を通して、心の教育を育む。	・話の聴き方【目で見て、耳で聞いて、頭で考えて、心で感じる】を繰り返し伝え、自分で意識できるようになった。 ・花まつりでは、紙芝居を通してお釈迦様の存在を知り、甘茶・お花をお供えして誕生をお祝いすることができた。 ・毎月の徳目では、言葉の意味を捉えながら園生活を過ごすことができた。 ・お釈迦様に関係する行事（花まつり、成道会、涅槃会）では、紙芝居や先生の話に興味を持つ姿が見られた。
②友だちとの関わりを通して協力することや達成感を味わう。	・年中・年長児はクラスで相談し、一年間の学級目標を掲げ、同じ気持ちで過ごすことができた。 ・運動会や作品展、発表会を通し、クラス全体で協力し、ひとつの事を最後までやり遂げる大切さを学び、達成感を味わうことができた。 ・年中児は、運動会で使う手具の布を各自で染め、色づく様子を観察した。そして、本番で身につけ頑張ることができた。 ・年長児は、前年度の取り組み（目標の達成ごとにシールがもらえる）による子どもたちの反応が良かった為、今年度も、目標達成に伴う表彰状制度を導入した。 ※縄跳び、逆上がり、のぼり棒、幼稚園の歌の歌唱、こま回し等 ・年長児は、ドッジボールを通して、クラスの団結力が高まり、勝負にこだわりを持ち楽しんで取り組むことができた。 ・鼓笛ごっこ（年長児と年中児の楽器を通した関わり）を通して、異年齢との関わりを持つことができた。又、年長児は、自分達が経験したことに自信をもち、鼓笛の楽しさを伝えることができた。 ・鼓笛を通して、難しいことにも最後まで諦めずやり遂げること、友だちと支え合い頑張ること等を経験し、達成感を感じることで自信を持つことができた。さらに今年度は初めての試みである鍵盤体操にも挑戦し、それぞれが目標に向かって頑張ることができた。 ・発表会では、曲の歌詞の意味を考え、子ども達自身で振付を考えて踊ることができた。又、互いに話合いながら進める姿も見られた。

③自由に表現する楽しさを感じる。	・作品展では、大きなテーマにおいて、クラスでどのようなものを作りたいかみんなで考え、思い思いに好きな素材や技法で表現することができた。 ・絵画講師からの声かけにより、イメージをさらに膨らませ製作に取り組む姿が見られた。 ・行事ごとに、楽しかったことや印象に残ったことを経験画として表現することができた。 ・年少児は、お店屋さんごっこを通して様々な廃材を使い、作りたいものや作り方を考え、みんなで楽しんで取り組むことができた。 ・年長児は、タイダイ染め（布の一部を縛り、染料がしみこまないようにすることで模様を出す技法）でクラスＴシャツ作りを行う為に、家庭との連携をとり、染まったＴシャツを土曜参観に親子で絵を描いてもらう機会をとることができた。 ・年長児は、少人数のグループでの廃材遊びを通し、一つのテーマに沿って子ども達で意見を出し合い協力して製作し、イメージしたものを表現することができた。 ・年長児は、絵画で大中小様々な形の型紙（四角、三角、丸、五角形、台形、雫等）を利用し、3 学期には鬼のお面製作に繋げることができた。
④自然や生き物との関わりを楽しむ。	・年少児は、トマト・ミニひまわりを育て、成長の過程で色や形の変化に気づき、植物に興味、関心を持つ姿が見られた。又、土の上に落ちているトマトに気づき、触らず大切に育てることを知った。 ・年少児は、畑で、サツマイモを育て、水やりをし、収穫する喜びを感じた。 ・年中児は、畑でトウモロコシを育て、水やり、観察をし、成長の過程を知り、植物を大切にすることを学んだ。食育に繋げることはできなかったが、収穫後、観察画として取り入れ表現することができた。 ・カブトムシの飼育において、飼育の楽しさを感じた。また、カブトムシの死に直面し、命の大切さを実感した。 ・年長児は、月刊絵本の付録にあるダンゴムシを育てるキットで、飼育ケース内にダンゴムシを飼育し、ダンゴムシが好む環境を図鑑で調べる等、生き物に触れることができた。 ・プラネタリウム鑑賞では、星の名前や七夕の話を聞き、天体への興味をもつきっかけとなった。 ・年長児にとっては、園生活で初めてのプール遊びであったが、大きなプールに入り、保育者や友達と水に触れる楽しさを感じることができた。 ・工場見学で明治製菓に行き、身近に見たことがある物がどのように作られているのか、目で見たり、匂いを嗅いだりして、五感を使って学ぶことができた。

	・芋ほりでは、実際に自らの手で収穫を行い、芋の感触や掘れた喜びを感じることができた。 ・動物村では、餌やりを体験し、動物と身近に触れ合うことで、生き物を大切にする気持ちが持てた。
⑤文字や会話、言葉に対して興味や関心を持つ。	・年度当初に自己紹介をし、人前で発表する機会を設け、新しい友だちの顔や名前、好きな事等を知ることができた。 ・友だちや先生との関わりの中で、様々な言葉を知り、会話が膨らんだ。 ・フラッシュカードを通して、ひらがなに興味を持つことができた。 ・時間の見通しが持てるように、時計の針と数字を照合させて知らせることで、時計を意識し、次の行動へ移すことができた。 ・年長児は、月刊絵本（個人用）において、ひらがなが読めるようになり、音読の仕方を理解し、読むことができた。又、絵画においては、裏面に自分の感想を平仮名で書くことができた。 ・あいうえおのワークを通し、文字の読み書きに興味が持てた。 ・自分の作品や絵本に名前を書くことで、大半の子どもが自分の名前を書けるようになった。 ・年長児は、絵本の内容の中で、リサイクルに興味を持ち、リサイクルマークを知り、身の周りの物から見つけ出し、友だち間で共有することを楽しむ姿が見られた。
⑥コロナ対策しながら、保育・行事等の見直しをする。	・給食時に、昨年同様パーテーションを使用し、黙食する事を心がけた。 ・年少児は、プールに入水できなかったが水遊びを実施した。自分たちでおもちゃを作り、水に触れる気持ち良さを感じ楽しむことができた。 ・年中・年長児は、プールの際に、プールサイドでの水遊びとプール入水の子どもを 2 グループに分散し行った。 ・コロナ禍で控えていた鍵盤の練習を再開した。鍵盤を吹く人数を半数に制限し、吹く直前までマスクを着用する等、感染対策を意識した。 ・お餅つきでは、動画を見てお餅が出来上がるまでの行程を知ることができた。又、年長児は、お鏡用の餅つきを行い、年中・年少児においては、実際に杵を持ち、模擬体験をした。 ・発表会は、現代劇場で実施し、出演中以外は、マスクの着用を徹底した。 ・コロナ禍ではあったが、学年の保育者同士で相談し、子どもの為に出来る保育内容を考えた。 ・コロナの感染拡大に備え、行事ごとに、保護者に、参加者名簿を記入してもらい、園で保管した。

研修・園内研修の充実	・コロナ禍で中止されていた外部研修が実施されるようになり、いろんな知識を習得できる機会が増えた。 ・月に 1 度の園内研修では、各学年や園務の先生が様々な議題を考え研修を行い学ぶことができた。職員間のコミュニケーションをとる良い機会となった。又、いろいろな考えを知り、学びを自分の保育に活かすことができた。 ・体操講師によるパラバルーンの研修では、専門的な知識を学ぶことができた。 ・職員が鼓笛のライセンスを園で取得することができた。
幼稚園と家庭、地域との連携	・コロナ禍において、健康観察カードを保護者に記入してもらい、子どもの健康状態を把握することができた。 ・参観、個人懇談等、人数を分散して実施し、保護者に少しでも園での様子を知ってもらうことができた。 ・保護者の悩みに耳を傾け、保護者の考えや子どもの理解にも繋がった。悩みの内容によっては、カウンセリングで相談することも一つの手段である旨を伝えた。 ・保護者に対しては、子どもの様子を電話連絡や、直接伝える等、共有することを大切にした。 ・コロナ禍に伴い、音体フェスティバルや発表会を欠席した子どもの為に、園内での発表会を実施し、頑張ってきたことを保護者の方に披露する場を設けた。 ・作品展では、子ども達の製作風景を写真に撮り、スライドショーを作成し、普段の様子を伝えることができた。 ・近隣の中学校の職場体験に来た中学生と一緒に過ごし、地域との関わりを持つことができた。 ・ホームページの写真館やブログで子ども達の様子を伝えた。

４.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教育課程の更なる見直し

・子どもたちからの思いを汲んで、子どもがやりたいことを実現することができた。

・できない事にも挑戦し、友だち同士で気持ちを高め合って頑張ることができた。

・行事を通し、みんなで協力しやり遂げる大切さを学んだ。又、自主的に取り組む姿も見られた。

・グループでの廃材遊びを通して、子ども同士が意見交換をし、互いの意見を尊重することや、協調性を身につけることができた。

・with コロナの時代となり、対策を講じながら、保育者が出来ることを考え、昨年よりも活動範囲を広げて保育を行うことができた。

研修・園内研修の反省と課題

・園内研修を行うことで、職員間でコミュニケーションをとる機会が増え、園内研修の内容を保育に取り入れ活かすことができた。
・園内研修の内容を決めるのが難しく、時間がかかる場合があった。
・専門的な知識を学ぶ上で知識が足りず、深い学びにならない事もある為、外部研修で学ぶ機会を増やしてほしい。
・以前は外部研修で参加していた研修（パラバルーン、鼓笛ライセンス）を園で受講できたことで、保育に自信を持って取り組むことができた。

幼稚園と家庭との連携の充実

・子どものことを一番に考え、保護者と連携することができた。
・保護者の悩みを聞き、保護者の考えを知り、子どもの理解にも繋がった。
・昨年度より、保育者と保護者との交流をもちながら保育をする機会がもてた。（土曜参観）
・保護者に普段の子ども達の姿（外遊び、給食等）を見てもらう機会が少なかった。

５. 今後取り組むべき課題

課題	令和４年度　課題点・具体的な取り組み方法
教育課程の課題・見直し	・コロナ禍の状況を把握し、その中で行える行事や保育を構築していく。 ・入園当初の保育において、製作が多く取り入れられていたため、子どもの様子を見て、内容等を十分検討し取り組む。 ・行事においては、子どもたちが、他学年の様子を見ることができる機会が持てるようにする。 ・子ども達のやりたいことを尊重して、自由に過ごすことができる時間をつくる。 ・指導方法や保育中の子ども達の様子など、職員同士で意見交換を行い、保育の幅を広げていく。 ・植物を育てる機会を持てず、関わることができなかった。 ・跳び箱や鉄棒等は体操の時間でしか触れる機会がないので、経験できる機会や遊具の導入ができればと感じる。 ・年長児においては、スポーツに興味を持つ子どもが多く、保育内容に多く取り入れることがあったが、学習面での取り組みが少なく感じた。まんべんなくいろいろな取り組みをしていきたい。 ・年長児においては、字の読み書き（平仮名、カタカナ）や、文章立て、平仮名のワーク等を取り入れる事で、小学校での学びに向かう力を育みたい。 ・食育の一環として、子ども達に成分表を活用し伝えることができた。

外部研修・園内研修の充実	・外部講師による園内研修や園外研修に参加し、専門的な知識等を学び、保育の質の向上に努める。又、園外研修で学んだことは、知識を職員間で共有し、保育に取り入れられるようにする。 ・園内研修の準備と行事の準備を平行して行うことが難しい為、毎月ではなく、行事のない月に各学年 1 回ずつ取り組む等、今後検討していく必要がある。 ・各学年、配慮が必要な子どもへの対応を園内研修等で共通理解を図ることで、全ての子どもの成長へと繋げる。
幼稚園と家庭との連携	・保護者と保育者とで子どもの情報共有を大切にし、コミュニケーションをはかる。 ・普段の子どもの様子を手紙や HP の写真館でアップし園での様子を引き続き伝えていく。 ・参観等では、保護者にも保育に参加してもらう内容を設定する等、子ども達の様子を知ってもらう。
その他	・コロナ禍で得た気づきや工夫を今後の保育にも生かしていきたい。

６. 今後取り組むべき課題（学校評価委員からの意見）

●教育課程の確認・見直し

・入園式や卒園式、運動会、発表会など様々な行事を見させていただき、仏教保育に根差し規律のある、しかも子どもたちがいきいきとした姿を見させていただき、いつも感服しております。

・園内もいつもきれいに整頓され、チリ一つ落ちていない園舎を見ると、こちらの心も洗われるようです。日々、園長先生はじめ職員の皆さんが当たり前のように環境美化活動をされていると推測できます。

・作品展を見ると、同じ年長さんでも、それぞれの先生が同じテーマではあるが、一工夫され特徴ある作品を園児と共同で作られているのに感心します。伝統ある鼓笛の演奏ですが、一つひとつ積み重ねていって演目を作られているのを見たとき、「幼稚園でもこれだけのことができるのだな。」と驚きました。

・コロナ禍の 3 年間で、園児の質や取り組み方も変わってきてしまったと感じます。小学校でも、例えばプール指導などでは、ほとんど指導できないままで 4 年生を迎える児童がいて、運動場での遊びが制限されていたため、すぐ戻すのが困難な出来事が出てくるように思います。園児の様子や保護者の様子などを見ながら、より発展していってほしいと思います。

・コロナ禍の中で（昨年よりおちついたとはいえ）保育、教育活動にご苦労された様子がうかがえました。「仏教保育」を基本にすえて日々の活動を工夫されたことで、子ども達の成長が見られたことは、保育者の先生方にとってこの上ない喜びと思います。

・一年間の学級目標を決め、日々すごすことで、子ども達は連帯感をもち、意欲的積極的に取り組み、子ども同士のつながりが深まったことと思います。

・鼓笛の取り組みも異年齢を意識し、新しい体操にも挑戦できたことは、子ども達のさらなる成長を促せたことと思います。

・表現、制作活動、栽培活動、生き物とのふれ合い活動においてもさまざまな活動を工夫されています。文字や言葉、数字においても子ども達の意欲を引き出す活動をされ、楽しみながら文字や数字、ことばの獲得につながったことと思います。

・子ども達が意見を出し合い、ともに考え協力する取り組みを大切にされています。子ども達が主体性を身につける事ができるようによろしくお願いします。

・礼儀や徳育、自然とふれあう教育活動も評価できます。

・私は、現在「通学路指導員」をさせて頂いております。登下校時多くの小学生、中学生、ご父兄に連れられた幼稚園児たちを見ておりますが、きちっと挨拶のできる子、できない子がいます（なかには、大人でも）

・貴園の『心の教育』はとても大切な事だと思っております。これからも教育目標の中心として継続をお願い致します。

・運動会、作品展、生活発表会を参観させて頂きました。年少・年中・年長と成長の過程がよく分かり楽しかったとともに、「みんな、協力しながら目標達成する事を学んでいるなあ」と感じました。

・卒園式・入園式に参加させていただいて、まず感心する事は、園児全員の顔が前を向き、話を聞き、すぐ行動できる姿勢がきっちり整い、出来ている事、作品展、発表会を拝見し、クラス全体の協力はもとより、クラス全体で声かけをして励ましあい、協力し合う姿勢をつくり、物事を

やり遂げようとする、そして出来た喜びを分かち合う、その大切さを学んでくれているように思う。

●研修・園内研修の充実

・オンライン研修だけでなく、園内で実地研修をされているのは素晴らしいことと思います。
・りんでん学園伝統の鼓笛だけでなく、体操、英語などもこれからはウリになるように発展されることを期待します。
　また、ＳＤＧｓの取り組みやＳＮＳ上の人権を蹂躙するような差別発言など今の私たちを取り巻く問題もたくさんあります。保護者会とも連携をとって園児や関係者が被害にあわないように、巻き込まれないような取り組みをされることを期待します。
・多忙な中での園内研修を月に 1 回実施されたことで先生方の保育力の向上だけでなく、園全体の共通理解や先生方どうしのつながりが深まったのではないかと思われます。成果が見られたことはすばらしいです。
・大阪市の私立においては、大阪市私立幼稚園連合会主催の研修がさまざまあるのですが、大私幼の研修が充実していないように思います。外部研修に参加しにくい現状があるのでしょうか？
外に出ていく研修にも参加できるようであれば尚、よいのではと考えました。
・先生方の知識や教育力を向上させる事は、そのすべてが子ども達に返っていく事であり、非常に大切な事だと考えます。今後も様々な研修会を企画し、先生方の教育力の向上を図って下さい。
・研修・園内研修については、私は直接判断する材料を持ち合わせておりませんが、先生方ご自身によるご評価、参観させて頂いた行事から判断して問題は無いと思います。
・先生方が、前向きに研修に取り組んでおられる姿が目に浮かびます。
・自然へ目を向け、野菜を育てる楽しさ、又、小動物の飼育の楽しさや、喜びを園児達に紹介し、取り組んでおられる。
・必ずや、先生達の先取り、研修が必要となってくるそんな中で、先生達が知恵を出し合い、研修し、園児達に引きつぎ、園児たちに喜びを与えるその連携がすばらしいと感じる。

●幼稚園と家庭・地域との連携

・りんでん学園の取り組みを理解して入園を希望される保護者が多いように思います。それだけ、特徴のある取り組みをされていると思いますし、運動会や発表会の保護者の取り組みを見ていても、連携がしっかりとれているように感じます。
　また、本年 2 月、近隣中学校区の合同研究発表会には、副園長先生や担当の先生が出席され、保幼少中連携に積極的に取り組まれていることに感謝します。校区の公立幼稚園が今年度末で廃園になると聞いています。近隣中学校区は、2 小 1 中が長年連携を取り合って取り組みをしてきました。その中で長年りんでん幼稚園は陰に陽にかかわってくださっていることに感謝します。これからは、公立私立の垣根を取っ払って保幼少中連携が取れるように積極的にかかわっていかれたらいいと思います。
・保護者のみなさんに信頼される取組を工夫され実施されていると思います。特にコロナ禍の中では、安全、安心な保育が一番必要ですので、その工夫をされていることで保護者は安心して子ども達を送り出されていると思いました。

・平素の子ども達の活動がわかるようにホームページやブログの活用、作品展でのスライドショーの作成など園からの発信を多忙な中で行なっておられた事は、保護者にとって何よりもうれしいことと思います。
・子ども達が安心して安全に園での生活が送れるために、園と保護者の方と連絡を密にする事は必要不可欠なものです。より丁寧で心のこもった連携をよろしくお願いします。
・コロナ禍をきっかけに、ZOOM を利用したリモート教育や日々の活動のオンライン配信など、コミュニケーション環境が劇的に変化しました。貴園はそれを上手に活用されていると関心しております。これからも継続をお願い致します。
・幼稚園と各家庭の連携は基盤となる一番大切な事だと感じている。家庭に於ける子ども達の悩みなど、しっかり受けとめ、安心して子育てのできる手だてを差しのべてくださっている様子がよくわかりました。
・個人懇談を通して、園のあり方を理解していただく、そして、又、子育ての悩みなどに耳を傾け、力を注いでいく、大切な事を心がけておられる。嬉しい限りです。そのような姿勢を、取り組みを保護者は察し、よく理解し、共に協力しようとする雰囲気が伺えて、よい関係ができていると信じ、安心しております。

●その他の意見や感想

・コロナが落ちついてきた中ですが、引き続き安全・安心な教育活動を展開されることを期待しています。
・コロナ禍の 3 年間で工夫し、変更になった活動で良かった事も多くあったと思いますので、ぜひ、振り返りをしていただき、さらによりよい教育活動につなげていただきたいと思います。
・他園では、参観を各学年 2 日間の設定で継続しているところもあります。このように、コロナ禍での取組を今後も取り入れることができるかの検討をしていっていただけたらと思います。
・保育するには、何より先生方の健康が大切です。どうぞご自愛されて、りんでん幼稚園ならではの保育・教育を継続されますよう願っております。
・すべての子ども達が仲良くいきいきと園で活動できるには、先生方が明るく元気で協力しあって教育活動に携っていることが大事だと思います。そのために、先生方のコミュニケーションづくりや健康管理がしっかり行えるような職場環境づくりを、園長先生にお願い致します。
・年間を通しての諸行事（運動会、作品展、生活発表会等）を拝見できる事を楽しみにしています。